

安倍・自民、橋下・維新の暴走政治と対決 コータロー



暴言の根っこ—— 侵略戦争の正当化

「慰安婦制度は必要だった」という維新の橋下共同代表のとんでもない発言に、もう一人の共同代表である石原氏も、「基本的に間違っていない」。安倍首相も「立場は違う」というだけで、発言内容を否定しませんでした。

これらの根っこにあるのが、過去の侵略戦争を正当化しようという狙いです。

9条を生かした 平和外交の先頭に

侵略戦争と植民地支配の真剣な反省のうえに、うちたてたのが「戦争はしない」「軍隊はもたない」と決めた憲法9条です。

これをつらぬいた平和外交でこそ、アジアと世界から日本への信頼が築けます。

コータローは憲法の全条項を守り抜き、9条を生かした平和外交の先頭にたちます。

自民・維新が「改憲連合」

橋下・維新の会は、安倍・自民党と手を組んで憲法を変えるため、「参議院で3分の2以上を」と叫んでいます。

そのターゲットは9条です。そして、憲法を変えやすくするために、まず96条改悪を訴えます。しかし、それは「国民が権力を縛る」という憲法の性格そのものを変質させるものです。



「慰安婦は必要だった」

橋下発言に国内外から批判続出

「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていくときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、慰安婦制度は必要なのは誰だってわかる」(維新・橋下共同代表 5月13日、大阪市役所内で)



(アメリカ政府当局者)

「発言は言語道断で侮辱的なものだ」

(韓国外務省)

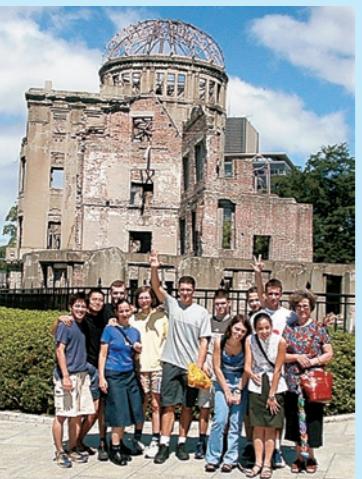
「今回の発言は女性の尊厳を冒涜し、歴史を歪曲し、反人道的な犯罪を擁護しようとする内容だ」

(琉球新報)

「彼に何より足りなかつたのは人権感覚だ。人間認識の根本的な誤りに気付いていない」

慰
問
安
題
婦
と
は

旧日本軍が朝鮮半島などから多数の女性を動員し、「性奴隸」として「売春」を強制した許し難い戦争犯罪。日本政府は1993年になってようやく「慰安婦」問題について国の関与を認め、謝罪しました(河野洋平官房長官談話)。これを安倍政権や橋下市長らは「強制はなかった」と「見直し」を求める動きを強めています。



コソボ、9・11テロ

反戦平和を胸に刻むコータロー

たつみコータローは、北野高校を卒業後、単身渡米。帰国後、国連ボランティアとして、コソボ(当時のユーゴスラビア)にいる高校生の「日本招聘(しょうへい)プロジェクト」事務局長として活動します。

そのときに9・11同時多発テロが起きました。アメリカによるアフガニスタン攻撃を目の当たりにしたコータローは、「武力は憎

しみの連鎖しか生まない」と強く胸に刻みます。

そして02年、戦前以来の日本共産党的歩みを知り、入党。反戦平和の歴史を受け継ぎ、アメリカで世界各国の若者と交流し、互いの歴史を見つめあった経験も生かし、憲法擁護、沖縄基地撤去などの活動の先頭にたっています。



沖縄にて、アメリカ軍の基地を視察。
辺野古座り込み、そして高江のヘリパッド建設反対の連帯行動に参加。

国民のための政治をしてくれる

若くて、行動力があって、何事にも真摯で! 大好きです。なんとしてもコータローさんに国政をかえるために頑張ってほしい。

憲法・原発・外交、そして子育てと、問題が山積。平和な生活が脅かされている今こそ、国民の意見を聞き、国民のための政治をしてくれる政治家が国を動かさないといふと、日本が崩壊してしまいます。

「世界から戦争をなくしたい!」と日本共産党に入り、奮闘してきたコータローさんだからこそ、国民のための政治ができると思うのです。



子育てママ
(北区在住)
安居 裕子さん